

国際貿易とエネルギー利用

鶴見哲也* , 馬奈木俊介** , 日引聡***

*横浜国立大学大学院国際社会科学研究所
〒240-0067 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79 - 4
tetsuya-tsurumi@nifty.com

**横浜国立大学経営学部
〒240-0067 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79 - 4
managi.s@gmail.com

***国立環境研究所社会環境システム研究領域
〒305-8506 茨城県つくば市小野川 16-2
hibiki@nies.go.jp

要旨

近年、貿易の自由化に向け国際的な取り組みが活発化している。一方、エネルギー消費への依存を低めることは、地球温暖化や硫黄酸化物や窒素酸化物などの大気汚染の改善に関連するだけでなく、エネルギー安全保障の観点から重要な課題である。本稿では、先行研究における分析上の問題点、すなわち、内生性や系列相関の問題などに対処することで、貿易の自由化がエネルギー消費量に及ぼす影響を再検討した。その結果、貿易の自由化は、発展途上国（非 OECD）では、短期および長期ともに、エネルギー消費を増加させる方向に働く一方で、先進国（OECD）では、短期的にはエネルギー消費を削減するが、長期的にはエネルギー消費を増加させる効果を持つことが明らかとなった。また、短期的な影響は非常に限定的であるが、長期的な影響は大きなものとなることが明らかとなった。

キーワード：国際貿易，貿易自由化，エネルギー